

普及項目	増殖
漁業種類等	採そう漁業
対象魚類	フクロフノリ
対象海域	えりも以西太平洋海域

フノリ増殖指導

北海道日高振興局

日高地区水産技術普及指導所（小笠原昌希）

【背景・目的・目標（指標）】

えりも町のふのり漁業は主に3～6月の期間に行われ、こんぶ漁業に従事する漁業者にとって閑散期となる冬期から春期にかけての貴重な収入源となっているが、近年漁獲量は減少している。えりも町東洋地区では、増産に向けた取り組みを再開することが決まり、それに合わせて指導所へ指導要望があった。

指導所は要望に対して、観察による漁場状況の把握やフノリ増殖手法を関係者と再確認する勉強会、漁業者との意見交換をもとにした調査活動を行い増殖手法の検討と定着を図った。

【普及の内容・特徴】

漁獲量の整理から東洋地区の漁獲量は、漁協全体の漁獲量と同様の傾向が見られ、近年は減少傾向にあることが分かった（図1）。漁場観察と漁業関係者からの聞き取りからは、過去にフノリが着生していた場所は、雑海藻に置き換わっており、フノリ着生面が減少したことが判明した（写真1）。

指導所が企画した東洋地区での勉強会では、フノリの生態や増殖手法を中心に紹介したほか、漁業者との意見交換も行った。（写真2）。

また、東洋地区が実施した磯掃除と胞子液散布に立ち会い、注意点等を指導するとともに（写真3）、調査定点を設置して経過観察を行った。観察ではフノリの着生を確認できたが、雑海藻に覆われており、漁業者の期待する結果とはならなかった（写真4）。

この結果をもとに漁業者との意見交換が行われ、「フノリ胞子放出期調査」と「磯掃除と胞子液散布の効果調査」の要望があり、各調査を行った。その結果、フノリ胞子の放出期は6月中旬頃と推定され（表1）、磯掃除時期の海水温は概ねフノリ胞子の最適水温内にあったこと、磯掃除（写真5、6）及び胞子液散布（7、8）はどちらも増殖手法として有効であることを改めて確認できた。

【成果・活用】

「フノリ胞子放出期調査」と「磯掃除と胞子液散布の効果調査」の調査結果を東洋地区の会議で代表者を中心に説明を行い、漁業者の磯掃除時期と増殖手法の効果に関しての疑問を解消することに繋がった。

また、今回の調査結果は新たにフノリ増殖に向けた取り組みを検討している他地区へ事例紹介として活用された。

【達成度自己評価】

5 十分に達成され、目標（指標）を上回る成果が得られた（101%以上）

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

③ おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）

2 かなりの部分で目標（指標）は達成できなかった（26～50%）

1 取組が不十分であり、目標（指標）はほとんど達成できなかった（25%以下）

【その他】

増殖手法の磯掃除と胞子液散布の有効性は確認できたが、場所によっては周辺の雑海藻の影響でその効果が弱くなる。よって今後はフノリ以外の雑海藻の生態等も考慮した磯掃除方法の模索が必要となってくる。また、水温観測結果等は単年の結果だけではなく、今後も観察を継続しデータを積み重ねることが必要と思われる。

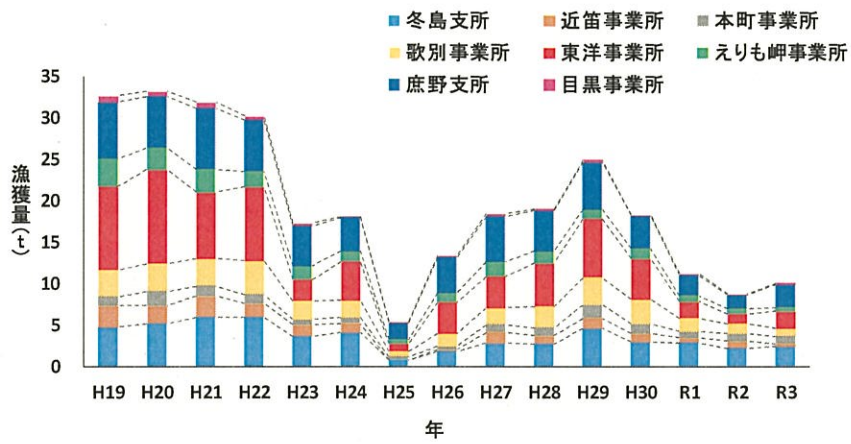


図1 えりも漁協のフクロフノリ漁獲量 (乾燥重量)



写真1 雑海藻に埋もれたフノリ



写真2 勉強会の様子



写真3 磯掃除



写真4 磯掃除を実施した地点

表1 フノリ雌性体の空の嚢果（空嚢果）割合の変化

採取日	観察に用いた 雌性体数 (本)	空嚢果の有無（本）		空嚢果がみられる 雌性体の割合 (%)
		無し	有り	
6月7日	5	5	0	0
6月19日	30	10	20	66.7
6月30日	16	0	16	100.0
7月10日	28	0	28	100.0



写真5 磯掃除調査前の岩盤



写真6 磯掃除調査後の岩盤（1年後）



写真7 胞子液散布調査前の岩盤



写真8 胞子液散布調査後の岩盤（1年後）